

都道府県番号	37
都道府県名	香川県

【 】

学校名及び規模

学校名	大野原町立大野原小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	2	3	2	3	3	3	19	28
児童数	94	76	95	75	87	81	5	513	

研究の概要

(1) 研究主題

生きる力をはぐくむ 豊かな学びの創造
- 確かな学力の向上をめざす少人数指導の工夫 -

(2) 研究主題設定の趣旨

本校の求める豊かな学びとは、児童が自ら求め、発見し、創造する中で、確かな学力が身に付くような学習である。児童を「学ばされるもの」でなく「学びたいもの」と位置づけることによって、「教え込む学力」ではなく「育つ学力」をめざしていくことが大切であると考え。そこで、一人一人の児童が、自分の興味・関心や課題に合った学習活動を展開する中で、知識や理解をより確かなものにしていきながら、問題解決的な学習を行い、自分の力を最大限に発揮し、追究していくような学びの創造を支援していく。そのことを通して、「生きる力」をはぐくむことができると考え、本主題を設定した。

研究の内容

(1) 研究推進体制の工夫

日課への「学年団少人数研修」の位置付け

学年の少人数指導について研究内容に沿って研究を深め、実際に授業の計画立案、実施、反省などが効率的に進められるように、右のような学年団少人数研修を日課に位置付けている。学年団と少人数指導担当者とは互いに研鑽し合いながら教材研究を深め、よりよい授業作りをめざしている。少人数指導担当者会による研究推進と評価

校内研修（学年団少人数研修）計画
日課への「打ち合わせ」の位置付け

月	火	水	木	金
15:55~	15:55~	15:15~	15:55~	15:55~
<学年部会> 1・3年算数 2年 国語	<学年部会> 4・5年算数 3年 国語	全体会	<学年部会> 2・6年算数 1年 国語	<学年部会> 4年国語

少人数指導担当者会では、研究内容や方法の立案や研究を深めていくための提案の検討を行う。ここでは、教科間や学年間の調整を図るとともに、研究の推進状況を評価し、見直しを図る。

(2) 研究の実際

評価に取り組む四つの視点

児童を生かすための評価について、次の四つの視点から取り組んでいる。


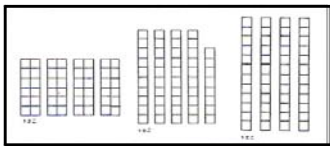
- <評価の視点1> 「関心・意欲・態度」「数学的な考え方」の評価の工夫
授業中の反応や表現物など、見取りの方法を工夫する。
- <評価の視点2> 指導に生かす評価の工夫
評価による実態把握に基づいた学習コースの設定や指導の工夫をする。
- <評価の視点3> 自己実現に結びつく評価
教師の賞賛や児童相互に認め合い、共感し合える相互評価を位置付ける。
- <評価の視点4> 生きる力につながる自己評価
児童が自分の学習状況をとらえ、目標をもつための自己評価を継続する。

評価を生かした指導の実際 <評価の視点2 指導に生かす評価の工夫>

第4学年 算数 「わり算」 - 計算のしかたをいろいろ考えよう - (学校図書) 7
 12個入りのキャラメル4箱, 48個を3人で等しく分けたときの1人分を考える学習 本時8

授業をするにあたり, 関連する既習の第3学年のわり算や本単元の前時までの6時間の内容についての評価を行い, 実態を把握したところ, 数学的な考え方や表現・処理の実態にかなりの開きがあった。そこで, 児童の実態に合わせて理解が進められるように習熟度別編成を行った。

ここでは, 具体的な操作を取り入れ, 確実な定着をめざす基本コース, 3種類のブロック図を活用し, 自力解決をめざす充実コース, 交流による深まりで, 除法の考えを広げることをめざす発展コースを設定した。

評価 指導	内 容																																																								
学習前の評価 (実態把握) ・ドリル ・チェック テスト (評価規準) 正答数 + 時間 A: 十分達成 B: 達成 C: 不十分	既習内容による評価(ドリルによる評価) 計算を中心に, 右表のような各学年の基礎・基本となる内容を取り出し, 全校で30級のドリルを独自に作成している。関連する既習の計算についての正答数や時間によるドリル評価を行い, 実態を把握した。 未習の内容による評価(チェックテストによる評価) 既習のわり算を使って, 簡単な未習の問題をどの程度考えられるかなどの「数学的な考え方」を調べるチェックテストを実施した。(16級: 75問, 11級: 60問)																																																								
	基礎計算30級構成表 <table border="1"> <thead> <tr> <th>実施学年</th> <th>学年</th> <th>内 容</th> <th>問題数</th> <th>算</th> <th>数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>30</td> <td>1</td> <td>10の補数</td> <td>20</td> <td>+</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>16</td> <td>3</td> <td>わり算九九裏あまりなし</td> <td>75</td> <td></td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>4</td> <td>小数のたし算の筆算2位数</td> <td>28</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>4</td> <td>小数のひき算の筆算2位数</td> <td>28</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>4</td> <td>わり算の筆算3位数÷1位数</td> <td>16</td> <td></td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>4</td> <td>わり算の筆算2位数÷1位数</td> <td>16</td> <td></td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>4</td> <td>わり算暗算九九あまり</td> <td>42</td> <td></td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>5</td> <td>小数のかけ算の筆算</td> <td>20</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			実施学年	学年	内 容	問題数	算	数	30	1	10の補数	20	+	-	16	3	わり算九九裏あまりなし	75		●	15	4	小数のたし算の筆算2位数	28			14	4	小数のひき算の筆算2位数	28			13	4	わり算の筆算3位数÷1位数	16		●	12	4	わり算の筆算2位数÷1位数	16		●	11	4	わり算暗算九九あまり	42		●	10	5	小数のかけ算の筆算	20		
実施学年	学年	内 容	問題数	算	数																																																				
30	1	10の補数	20	+	-																																																				
16	3	わり算九九裏あまりなし	75		●																																																				
15	4	小数のたし算の筆算2位数	28																																																						
14	4	小数のひき算の筆算2位数	28																																																						
13	4	わり算の筆算3位数÷1位数	16		●																																																				
12	4	わり算の筆算2位数÷1位数	16		●																																																				
11	4	わり算暗算九九あまり	42		●																																																				
10	5	小数のかけ算の筆算	20																																																						
	抽出児1 16級わり算 69問正解 C 11級わり算(余り) 40問正解 C 未習への思考力 C 判定 C	抽出児2 16級わり算 75問正解 A 11級わり算(余り) 54問正解 B 未習への思考力 C 判定 B	抽出児3 16級わり算 75問正解 A 11級わり算(余り) 60問正解 A 未習への思考力 B 判定 A																																																						
評価に基づいた 指導の工夫 (習熟度別編成による個に応じた指導) ・つまずきの段階までフィードバック	基本コース ・3年わり算を復習する。 ・算数的活動を取り入れ, わり算の意味理解も含めた理解を図る。 	充実コース ・余りのあるわり算のドリルを位置付ける。 ・ブロック図を使い, 自力解決を支援する。 	発展コース ・多様な解決方法に挑戦させる。 ・いくつかの解決方法を基に, 共通点を探らせる。 																																																						
自己評価 (振り返りカード) 学習後の評価 (観点別評価)	今日, 必きつをして, いろいろ方法がよくなった! (関) A (思) B (知) A (表) B	九九ではむづかしかったけど, 4で割った方が楽だったよ。 (関) A (思) A (知) A (表) A	みんなのしきがいろいろあって, かわらなかつたよ。3がよりくわしくわかったよ。 (関) A (思) A (知) A (表) A																																																						
学習の1週間後のドリル評価	16級わり算 75問正解 B 11級わり算(余り) 56問正解 C	16級わり算 75問正解 A 11級わり算(余り) 60問正解 A	16級わり算 75問正解 A 11級わり算(余り) 60問正解 A																																																						

(3) 研究の成果と課題

成果

評価に基づいた学習コース設定による学習意欲の向上
 学習前の評価による実態把握に基づき、児童の実現状況と指導のねらいを照らし合わせて、効果的な学習コースを設定した。それにより、児童が自分の実態や課題に合った学習を行うことができ、個々の個性や能力をうまく生かしたり、伸ばしたりすることができ、学習意欲の向上につながった。

評価を生かした指導の充実による学力の伸長

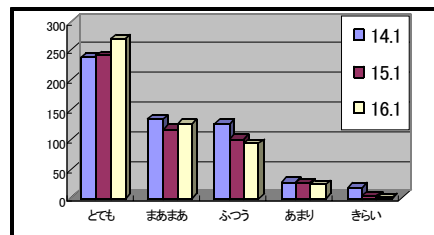
習熟度別学習では、児童のつまずきや分かり方に合わせて補充学習を取り入れたり、発展的な学習を行ったりすることで、より確かな理解を図ることができ、基礎・基本の定着につながった。単元毎の評価テストでは、全国平均の100を5～10%上回る目標をほぼ達成することができた。

課題

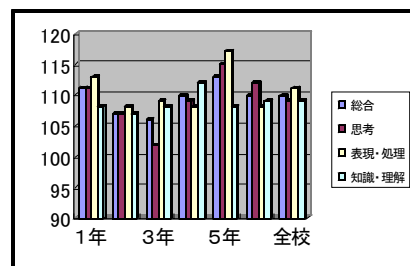
学習の過程での評価と指導の一体化の工夫

学習中の児童の見取りの方法を工夫し、そこでの評価をその場やその時間に指導の生かすことができるようにする。

<算数の少人数授業は好きですか>



<単元毎の算数観点別テストの平均指数>



(4) 研究成果の普及の方策

- ・学力向上フロンティア事業地区別協議会での報告(2002.6.20, 12.26, 2003.2.20)
- ・香川型指導体制研修会ポスターセッションでの発表(2002.8.29)
- ・授業公開並びに取組の説明(2002.10.29, 2003.1.22, 1.29)
- ・学校ホームページでの発信

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無

【特色ある取組事例として紹介したいポイント】

算数指導における評価研究の視点を明確にしている。指導に生かす評価となるために、評価の場を学習指導過程に応じて適切に設定し、場に即した評価方法を駆使することで子どもの実態や学習中の様子を的確に捉えようとしている。学校独自に作成したドリルをコース選択の指標にしたり、学習内容の定着度合をみたりし効果的に活用している点は、評価、指導、教材開発が一体化した取組となっている。